

政府や社会を動かすのは、 いつの時代も青年の情熱と行動力です

日本青年団協議会会長 杉山和義



日頃より、自主、平和、民主的な社会づくりをめざし奮闘される皆様の取り組みに、心から敬意を表し、全国の青年団を代表し、謹んで新年のお慶びを申し上げます。2025年は、日本にとって極めて重要な一年でした。被爆・戦後80年という節目の年を迎え、私

たちは先の戦争の悲劇と平和の尊さを改めて胸に刻みました。しかし、国際情勢は緊迫の度を増し、ウクライナやガザ地区での争いは未だ終わりが見えません。このような不安定な時代だからこそ、核兵器のない平和な世界の実現に向けた運動を、私たちはさらに前進

させていかなければなりません。

国内では、日本初の女性総理が誕生し、政治の舞台における大きな時代の変化を感じさせる出来事となりました。このことは、社会の様々な場所で、旧来の価値観と新しい変化との間の対立構造が生まれつつも、一度動き出した変化は決して後退しないという時代の流れを象徴しています。

物価高騰と低賃金が青年の暮らしに影を落とし、将来への不安が広がるなかで、孤立や分断が広がりやすい時代となっています。だからこそ、私たちは、国籍や言語、政治や思想の壁を超え、人と人をつなぐ民間交流の力を信じます。地域青年団では、スポーツ大会や文化活動を通じて、若者同士が交流し、「違いがあっても面白い」「一緒にやるから楽しい」という信頼関係を育む場を作り続けてきました。この足元の確かな一歩こそが、地域か

ら平和をつくる力になります。

新しい時代を共に生きる私たち一人ひとりが、自らの生き方を真剣に見つめ、自分自身の人生を充実させられる社会を実現することが、今まさに問われています。よい良い社会の実現のためには、政治を他人事とせず、互いの意見をいかし合いながらどう一つの社会をつくっていくかを考えることが不可欠です。政府や社会を動かすのは、いつの時代も青年の情熱と行動力です。

中国の青年学生の抗日運動などの経験に学ぶ アジアの平和と未来をひらく 若者訪中団 (2025年8月)



広範な国民連合は2025年8月14日から19日までの6日間、東京の中国大使館、および現地受け入れ先の中国国際友好連絡会による多大な協力のもと、「アジアの平和と未来をひらく若者訪中団」を組織した。全国各地から学生など41人が参加した。最初に「北京大紅楼」を訪ねた。北京大学の旧図書館を博物館として改築した北京大紅楼では、五・四運動や新文化運動など中国共産党の初期の革命活動を紹介する展示に学んだ。五・四運動は1919年に北京で起きた反日・反帝国主義の学生運動で、中国共産党を生み出す揺り籠となった。

も多くの青年と手を携え、夢や希望を持って生活できる地域や社会をめざし、微力ながら取り組んでいます。結びに、読者の皆様にとって本年が輝かしい一年になりますことを心より願い、共に頑張ってくださいませよう。

2026年1月1日

人々の生活を豊かにしようとする エネルギーを感じた

九州大学 桜井杏

今回のプログラムを通して、中国という国に対する見方はとても変わりました。訪中前は、中国に

「若者訪中国」(2025年8月) 報告会が東京で10月31日に行われ、7人の団員の報告を受けた。その一人、桜井さんの報告である。

対して良いイメージがなく、今回の

所を見学し、図書館員として働いていた毛沢東がどのようにマルクス主義の影響を受けたのかを学ぶことができました。日本では、こ

第七三一部隊罪証陳列館やハルビン警察庁旧址、盧溝橋の中国人民抗日戦争紀念館に訪れた際には、日本が中国に行ってきた残酷な行為について学ぶことができました。

今回の旅で印象に残っていることは、中国側に情熱をもって日中関係をより良くしたいと考えている人がいたことです。こんなにも熱意をもって取り組んでいる姿に感銘しました。また、旅を通していろいろな場面で現地の方によくしてもらいましたが、言語の壁があり感謝をうまく伝えることができませんでした。この経験から、現在は中国語の勉強を始めました。次回中国に訪れる際には、ぜひ、中国語でのコミュニケーションに挑戦したいと思います。

が、実際の中国は、思っていた以上に安全で、優しい人が多かったです。困っていたら嫌な顔をせず助けてくれたり、日本人だからといって差別を受けたりすることはありませんでした。また、想像以上に中国は発展しており、自動運転のバスが実用化されているなど、近未来的な国でした。今回の旅について、改めて振り返り自分が中国で何を感じたかを記します。

これまで詳しく中国について勉強することはできなかったのですが、初めて知ることばかりでした。中国共産党の発祥の場所となったところで学ぶことができたのは、中国そのものものの基盤を学ぶ上でとても大切だと感じました。また、清華大学にも訪問することができました。実際に中国で名高い大学を見学し、これからの日中関係についても劉江永教授から聞いたことは貴重な機会でした。歴史というものはどうしても偏った視点から語られることもあるため、中立的な目線で考えることがより良い日中関係のために重要だと感じました。

情熱をもって日中関係をより良くしたいと考えている

また、中国では、ロボット展示館、自動運転モデル地区にも訪れ、中国の先進的な技術に驚きました。既に、自動運転のバスが実用

化されているなど、日本よりも近代的な社会があり、まだまだこれから成長していくと感じました。戦後の荒廃から、現在の姿になるまで発展した中国の成長スピードは凄まじく、その背景には国全体で技術革新を推し進める強い姿勢と、人々の生活を豊かにしようとするエネルギーを感じました。

中国の寛容さに衝撃を受けた

1日目は、北京大学紅樓を訪問

「日本を変える!政治を変える!」大討論2026

日時:2026年1月24日(土) 午後1時30分から6時まで

会場:日本教育会館(千代田区一ツ橋)

主催:「日本を変える!政治を変える!」大討論実行委員会

発言:鳩山由紀夫元内閣総理大臣、安河内賢弘まっちもJAM会長他

実行委員会事務局:広範な国民連合全国事務局内

目次

代表世話人 新年のごあいさつ	羽場 久美子 他一同	[2]
高市首相は間違いを正すべき	鳩山 由紀夫	[4]
日本は日中関係で誠意ある態度を	山崎 拓さんに聞く	[7]
12/2 高市首相発言撤回を求める緊急院内集会		
国会議員・有識者ら120人が国会内で緊急集会		[10]
高市答弁は実質上「72年合意」破棄を意味	孫崎 亨	[11]
急速な日本の軍事化と南西シフトの危機	伊波 洋一	[16]
高支持率の高市内閣が指し示す戦争推進の危機	羽場 久美子	[16]
世界は変わった 時代遅れの日本	山本 正治	[18]
戦争の足音高まる沖縄		
新春座談会	高良さちか/辛喜 愛/山内末子	[21]
院内集会「アメリカ兵の性暴力を終わらせたい!!」	唐井 梓	[24]
「沖縄を平和のハブに」が3回目のシンポジウム		[26]
八重山の最前線から	花谷 史郎/下地 あかね	[29]
新年メッセージ	北海道農民連盟委員長 中原 浩一	[30]
	日本青年団協議会会長 杉山 和義	[31]
今年3月に再び全国規模の百姓一揆	菅野 芳秀	[32]
日本の食と農の未来を考えるシンポジウム		[35]
農村を、食料を、環境を、誰が担うか	鎌谷 一也	[37]
労働組合と政策実現活動	安河内 賢弘	[40]
シンポジウム「日米地位協定とは何か」(横浜市・11/8)	白坂 リサ	[42]
各地の活動 ■ 広範な国民連合・長崎 第29回総会		[44]
若者訪中国に参加して	桜井 杏	[46]



広範な国民連合 推薦候補



東京都
町田市議会議員選挙
(2026年2月15日投票)

今村るか 候補
(無所属・現職)



月刊『日本の進路』(399-400号)

2026年1月発行(毎月1回、1日発行)

発行人 加藤 毅
発行所 自主・平和・民主のための広範な国民連合
〒230-0015 横浜市鶴見区寺谷1-11-9
電話 045-633-4534 FAX 050-3525-9863

定価 1,000円(本号合併号につき)
年間 6,000円(送料込み)
郵便振替 00200-9-39571 広範な国民連合
銀行口座 みずほ銀行川崎支店(普) 2251418
広範な国民連合
ホームページ <http://kokuminrengo.net/>
Email: info1@kokuminrengo.net

中国を狙う攻撃用ミサイル配備反対集会

「ストップ!長射程ミサイル健軍集会」が2025年11月9日熊本市で開かれ1200人がアーケードを埋め尽くした。熊本市の自衛隊健軍基地への、中国を射程に収める攻撃用ミサイル配備に反対する行動だ。リレートークでは、若者や女性、地元の商店街の役員が、「ミサイル配備は絶対許せない」「住民に何の説明もない」と抗議の声を上げ、健軍駐屯地までデモ行進した。この集会は、地元住民を中心にして幅広い団体が協力して取り組まれた。主催者の予想を超える大成功となり、平和を求める全国の運動を励ますものとなった。